

第18回日本時間生物学会学術大会報告

近藤孝男

名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻

第18回日本時間生物学会学術大会は2011年11月24-25日に名古屋大学で開催されました。また大会にジョイントする形でGCOE国際シンポジウム“Designing the Circadian Clock”も開催されました。参加者数、演題数などは以下の通りです。

時間生物学会学術大会 参加者数 265名

- ・シンポジウム 8 (演題数 35)
- ・口頭発表 12題、ポスター発表数、90題

国際シンポジウム 参加者数184名

- ・基調講演 1；ワークショップ 4 (演題数 12)
- ・ポスター発表数 31

いずれも予定以上の参加があり、発表と討議も充実していたと思います。あらためて、参加頂いた皆さん、招待講演者各位、準備委員会の方々、そして補佐して頂いた皆さんにお礼申し上げます。

以下、本大会の準備と実施にあたって気づいた事項をメモしておきます。

1. 統一セッションについて：今回の大会では、理事会で議論を受け全体の統一セッションを設けました。ここではこれまでの歴史と今後の展望を議論するようにしました。この試みは時間生物学会

の今後の発展に重要かと思います。

2. シンポジウムの構成について：シンポジウムは準備委員会で企画し、必要に応じ外部の会員にオーガナイザーをお願いし準備しました。
3. ポスター発表について：討議時間は合計3時間設定した。連続して3時間行いました。比較的タイトなスペースでしたが、熱心な討論が出来たかと思っています。ポスター賞の選考は限られた時間で行うため多くの制約もあります。理事会におかれた委員会と大会準備委員会との密接な連携が必要です。
4. 国際シンポの企画は名古屋大学GCOE「システム生命科学」との共催として行われました。GCOEの活動として国際シンポの開催が予定されていたので、ジョイントし学術大会の直後に開催することにしました。こうすることで国内の参加者にとっても海外からの招聘研究者にとっても効果的な交流が出来たかと思っています。今後の学会の国際化にも有効な手段と思います。

第18回日本時間生物学会学術大会大会長
近藤孝男